

東方金色符

2101i

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

あやややや…？スペルカードが発動しませんね？

幻想卿全土でスペルカードが使えなくなっただ！

そんな異変を解決すべく立ち上がるのは楽園の素敵な巫女を筆頭とした人間サイド！

そして今回の主人公であるオリキャラ&妖怪サイド！

もちろん出ます！異変を策謀した黒幕！

あんまり書くとネタばれになりそうだからここら辺でお暇するぜ
！

目次

第1話

プロローグ

その日、清く正しい新聞記者である射命丸文はネタを見つける（作ると言った方が正しいかもしれないが）ために

妖怪の山から博麗神社方向に向かっていた

「あやややや…ここまで平和だとネタが尽きてしまいますね…」

文がため息交じりに言うのもごもつともで

幻想郷は物が勝手に動き出したり妖精や九十九神が暴れ出した異変以来全く異変が起きないのである

「さて、のんびりもしてられませんしパッとネタを探しますか！」

そう言う文は翼をこれ見よがしに大きく広げ付近で一番高い木のてっぺんに片足立ちをした

その姿は凛々しく人間が天狗を恐れ妖怪の山に近づかないのも頷ける

「久々に使いますよ！疾風「風神少女」!!」

（風神少女…うじん少女…ようじよ…うじよ…）

高らかにスペルカード宣言をした文であったが辺りは山彦だけが響く悲しき静寂が包んでいた

「あやや？おかしいですね？」

スペルカードが発動せず少し恥ずかしくなって顔を赤くしている文が不思議そうにスペルカードの裏や表を見ている

◆◆？◆◆？

ここ幻想郷ではスペルカードを使った弹幕ごっこが流行っている。

詳しくは省くが「私は今から弹幕を放ちますよ」と言う

ある種の周りへの警告を含め日常でも宣言する妖怪は少なくない

疾風「風神少女」

というスペルカードは射命丸文のお気に入りです。幻想郷最速で動き回る時に宣言するスペルカードである

このように弹幕を放つだけでなく身体強化的なスペルカードがある事も是非覚えておいてもらいたい

◇◆?◇◆?

「…特に以上はないですね…」

異常が無いも何もスペルカードはただの紙なのだから当たり前である

「ふむ…」

と手に持っていたカエデを少し仰ぐ

ブワアツとその仰ぎからは想像もできないような風が吹き荒れる
どうやら風を操る程度の能力が失われたわけでは無いようだ

「これはこれはもしかするともしかするんじゃないんですか?」
にひひ と何かを思いついたように笑うと

文は見出しは何にしようとかどんな構図で新聞の流れを組もうかなどと考えながら

最初の目的地であった博麗神社に向かうのであった。

このなんでもないような異変が大事件に発展することなどこの時、
射命丸文は知る由も無かったのだ

お初にお目にかかります作者です。

別に文字数が足りなかったわけじゃないです本当です↑

この作品は初めて書く作品なのでいろいろ改善点が目立つかもしれません

これからがんばって書いていくので是非応援よろしくお願ひします

よっしこれで1000文字だな!↑